

持続可能性 DG 委員名簿

2019年9月27日現在

【委員】

枝廣 淳子	大学院大学至善館 教授 幸せ経済社会研究所 所長、環境ジャーナリスト
石田 輝正	日本労働組合総連合会 総合企画局 企画局 局長
小西 雅子	(公財)世界自然保護基金ジャパン(WWF ジャパン)自然保護室 室次長 日本気象予報士会 副会長
崎田 裕子	ジャーナリスト・環境カウンセラー NPO 法人持続可能な社会をつくる元気ネット 理事長
杉山 涼子	岐阜女子大学 特任教授 株式会社杉山・栗原環境事務所 取締役
関 正雄	明治大学 経営学部 特任教授 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 CSR 室 シニアアドバイザー
竹本 和彦	国連大学サステイナビリティ高等研究所 所長
土井 香苗	ヒューマン・ライツ・ウォッチ アジア局 日本代表
中村 由行	横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院 教授
藤野 純一	(公財)地球環境戦略研究機関 上席研究員
細田 衛士	中京大学経営情報学部 教授
森口 祐一	国立研究開発法人国立環境研究所 理事 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 教授
横張 真	東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 教授
吉田 正人	筑波大学大学院人間総合科学研究科 教授

(敬称略、五十音順)

【関係行政機関委員】

勝野 美江	内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局 企画・推進統括官
永島 徹也	環境省大臣官房総合政策課 課長
三浦 幹雄	東京都オリンピック・パラリンピック準備局 運営調整担当部長
若林 憲	東京都環境局 環境政策担当部長

(敬称略)



第9回街づくり・持続可能性委員会におけるご意見

第9回街づくり・持続可能性委員会の概要

1. 日時・場所

2019年3月25日（月） 10：30～12：00（虎ノ門ヒルズ9階 TOKYO会議室）

2. 主な議事

- （1）ダイバーシティ&インクルージョンの推進とD&I宣言について
- （2）2018年の組織委員会活動報告について
- （3）東京2020参画プログラムの現状について
- （4）持続可能性進捗状況報告書の概要

第9回街づくり・持続可能性委員会におけるご意見

持続可能性進捗状況報告書（SDGsとの関連性、情報発信、調達コード 等）

- これまでの努力で様々な取組が進みつつあるが、これからは体系的なPRが重要。
- これまでの議論の中であまり列挙しないということになったのかもしれないが、SDGsとの関連性が網羅されていない。もっと上手にポイントを発表することが大事。
- メダルプロジェクトはほとんどのSDGsと関係する極めて象徴的なプロジェクト。グループなどを作って体系化してPRすべき。
- 今やっているアクションとSDGsの17の目標との関連をプロットすることが体系化の第一歩だと思う。
- 報告書で終わらせないで、マニュアル化し、SDGsに対する国民の意識がワンランク上がれば、最大のレガシーになる。
- 報告書は極めて重要であるが、どうやってPRし、レガシーとしていくかを議論していく必要がある。
- 報告書は出して終わりになりがちだが、ツーウェイのコミュニケーションツールとして活用して欲しい。
- ペットボトルの水平リサイクルから一歩踏み込んだプラスチック対策や、選手村などのフードロスの取組についても次のタイミングで書き込んで欲しい。
- 改定された調達コードでも不十分だという指摘がある。もう少し進化させていくということを入れていただきたい。

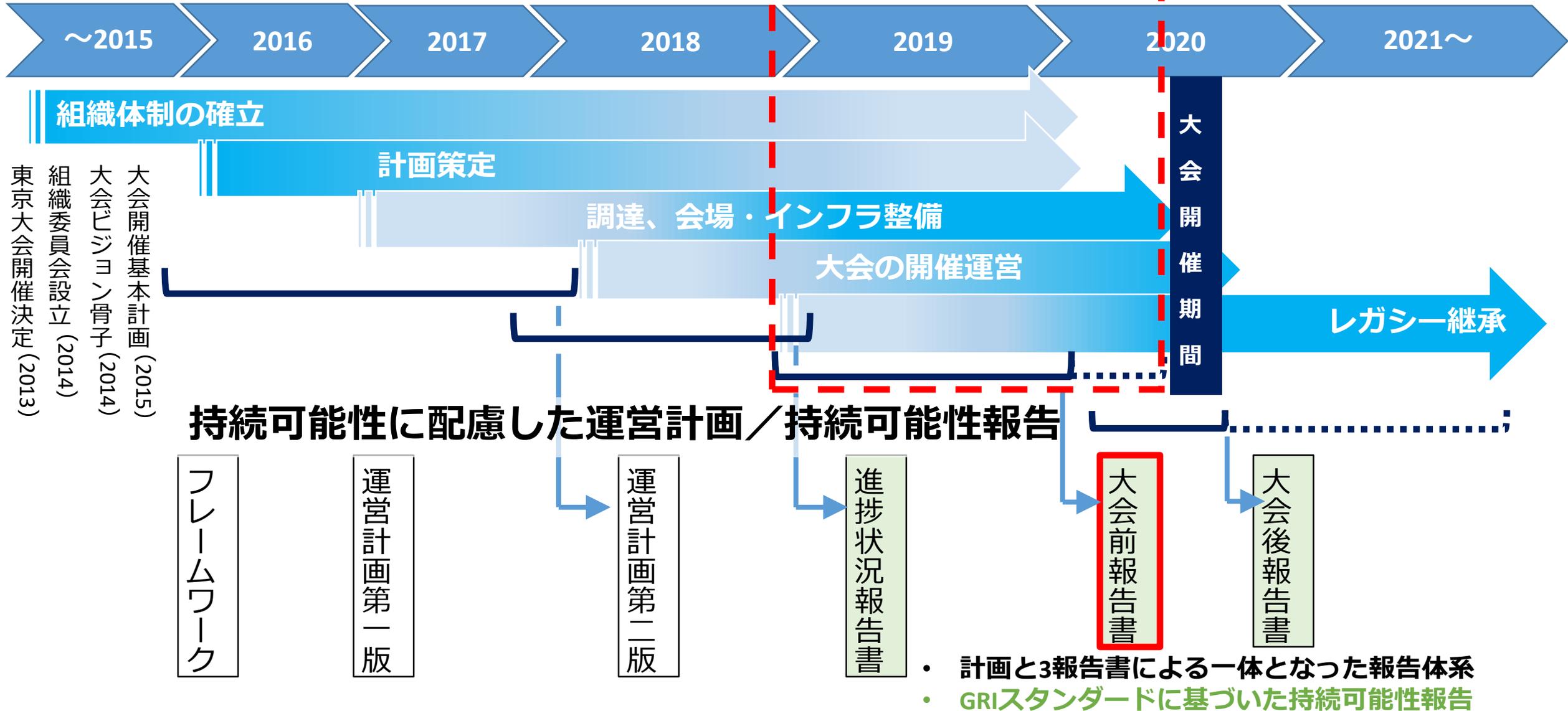
レガシー（様々な主体との対話 等）

- レガシーについて我々が今まで集めた知見を東京都だけでなく、未永く日本全国で広がるようにしたらよいと思う。
- 東京大会でどこまでチャレンジできるか、それをレガシーとしていかに定着させていくか、その流れを作っていくのが重要。組織委員会だけでなく、委員やマスコミなどもレガシーを作る参加者になっていくことが大事。
- 大会後のレガシーの担い手となる人たちと対話グループを作り、継続的に話していくことが重要。



持続可能性大会前報告書の方向性

東京2020大会のフェーズの進行と持続可能性報告の体系



持続可能性報告書の概要

組織委員会内外のステークホルダーが、組織委員会が大会を通じて持続可能な開発にどう貢献しているかを判断するための拠り所

- ・ 「持続可能性に配慮した運営計画」の実施状況を3回の報告書により公表
- ・ 国際的な持続可能性報告基準である「GRIスタンダード」に基づいた報告
 - 社会の重要な関心事項
 - 組織委員会の活動と東京2020大会の全体像
 - データとプロセスを説明
 - ポジティブな成果・経験と、ネガティブな結果・教訓の両面を記載

各持続可能性報告書の位置付け

大会の準備開催のフェーズの進展に応じて、3回の報告書で大会の全体像を報告

【各報告書の役割と主な記載内容】

- ・ **進捗状況報告書**： 準備段階における取組進捗状況（～約1.5年前）を報告（2019年3月公表）
【記載内容】 持続可能性の主要テーマの進展、会場整備等
【ページ数】 ロンドン2012: 126ページ → 東京2020: 158ページ
- ・ **大会前報告書**： **準備の最終段階(～約半年前)を報告、報告の中心（2020年3月公表予定）**
【記載内容】 持続可能性主要テーマの成果見込み、大会に関わる主要項目の具体的見込み
【ページ数】 ロンドン2012: 338ページ
- ・ **大会後報告書**： 大会開催の結果を報告（2020年12月公表予定）
【記載内容】 大会後に明確になる情報、レガシーへの展開
【ページ数】 ロンドン2012: 70ページ

大会前報告書の特徴

- 3回の報告書の中で、中心となる報告書
 - 国内外からの大会への関心が高い時期に公表され、大会の機運醸成にとって重要な手段
 - 記録・知的資産（レガシー）としても重要
- 概要版の作成
 - 報告書本文に加え、概要版を作成することで、大会の持続可能性の成果や意義について主要な事例等を通じて分かりやすく紹介し、幅広い読者に内容を発信

持続可能性大会前報告書の構成案

組織委員会トップ等によるメッセージ

持続可能性に配慮した大会に向けての基本理念

組織委員会及び大会関係者

本報告書について

報告の計画、枠組み、対象範囲、対象期間
マテリアリティ、ガバナンス
報告のテーマと構造 など

東京2020大会 持続可能性の主要テーマ

組織委員会：組織体制の変化

大会開催を支える組織体制
事務局体制の改編
会場を軸とした体制への移行 など

持続可能性マネジメントシステム

ISO20121導入の意義
ガバナンス体制、多様な方々との意見交換 など

主要テーマの進捗状況

気候変動

資源管理

大気・水・緑・生物多様性等

人権・労働、公正な事業慣行等

参加・協働、情報発信（エンゲージメント）

持続可能性に配慮した調達

会場整備

大会開催運営の準備

レガシー継承

付録

GRIインデックス

会場整備関係の実績詳細 など

主な取組実績、及び取組の進捗・課題等について

持続可能性マネジメントシステム

主な取組実績

ISO20121の運用

持続可能性への取組を着実に進めるため、ISO20121に則したマネジメントシステムを導入し、PDCAサイクルに則って運用中

組織内への持続可能性の浸透

- ・各FA・部署に設置したSUS責任者・担当者向けの会議等により、持続可能性に関する情報を共有し、各部署と連携して具体的な取組を推進
- ・組織委員会に新たに着任する職員等に対して、持続可能性に関する基本的な知識の研修を実施
- ・全ての職員等に対し、e-ラーニングにより持続可能性に関する研修を定期的実施し、持続可能性の重要性を組織委員会内に浸透

取組の進捗・課題等

ISO20121認証の取得、大会開催に向けての適切な運用

- ・ISO20121認証の取得に向け、外部認証機関による審査中
 - 認証審査における指摘等を踏まえ、大会開催に向けて適切な対応を検討

気候変動

主な取組実績

大会関係車両の低燃費化 FCV・EVの導入

◆大会関係車両（乗用車）における取組

大会関係者の移動に際して使用される乗用車については、FCV（燃料電池車）やPHV（プラグインハイブリット車）等の低燃費・低公害車を積極的に導入。約2,700台の乗用車のうち、FCVは約500台の導入となる予定
乗用車タイプの車両の平均CO₂排出原単位は、80g-CO₂/km※ 以下となる見込で（※トヨタ自動車試算）、過去大会と比べても、最高水準となる見通し



◆電気自動車（EV：Electric Vehicle）の活用

選手村内での選手移動用バスや、会場のラストマイルでの来場者の救護対応等に活用できる車両等、選手や観客の輸送に際して、走行時にCO₂等を排出しない電気自動車（EV：Electric Vehicle）を導入することを計画
その他、競技の先導車や聖火リレーへのEVの活用や、会場内における歩行領域EVの活用についても検討中



気候変動

主な取組実績

カーボンフットプリントの進捗状況

カーボンフットプリントの算定にあたっては、東京都のご協力のもと、組織委員会で算定ルールを作成現時点での最新数値で算定を行った結果について第三者検証を受け、報告書へ掲載する。現在、検証会社を選定中。なお、2020年12月の大会後報告書においては、取り得た実績数値から算定した結果を公表する予定

再生可能エネルギーの利用

東京2020大会組織委員会が「再エネ電気」として整理した考え方に従って選定中。可能な限り多くグリッドからの再エネ電気メニューの供給を受けられるように調整している
会場の再エネ発電設備については、武蔵野の森総合スポーツプラザに続き、海の森水上競技場が完成し、太陽光発電設備の稼働を開始

艇庫棟選手食堂内発電量表示モニター
(海の森水上競技場)



競技用LED照明の設置

オーバーレイにおける競技用照明は100%LED照明を採用。従来型の屋外投光器で使用されていた水銀ランプに比べて省エネ性能が高い。



大井ホッケー場に設置したLED競技用照明

気候変動

取組の進捗・課題等

カーボンオフセットの状況

「ゼロエミッション東京」の施策のもと、東京都には約181万t-CO₂のクレジットの寄付が寄せられている。「東京ゼロカーボン4デイズ in2020」の72万t-CO₂と、大会のカーボンフットプリント約293万t-CO₂の合計に占める割合は約50%

東京都クレジットの寄付（2019年8月末時点）	1,811,015t-CO ₂
埼玉県クレジット（2019年8月末時点）	未集計

市民によるCO₂削減・吸収活動の状況

東京大会の関係自治体や都内自治体の関心が高く、今後も更なる取組が見込まれる。一方、取組の全国的な広がりが限られており、都外への周知が課題。今後、東京2020参画プログラムに積極的な自治体へのアプローチを実施予定

申請者	活動名	削減・吸収量予定 (t-CO ₂)
横浜市	横浜市で行われる東京2020オリンピック・パラリンピック等にエコで参加しよう！（市民・事業者の省エネ活動の定量化）	12 (学校部門のみの現在実績)
熊本県	くまもとのBDF(バイオディーゼル燃料)（家庭廃食油を回収し、地域のエネルギーとして活用）	63
新宿区	新宿「みどりのカーテン」プロジェクト（みどりのカーテンによる室内冷房の使用抑制）	44
小平市	チャレンジ省エネinこだいら（アプリ版の環境家計簿の活用による電気やガスの使用量削減）	6
小平市	エコチャレンジの木（市内小学校の児童が実施した省エネ活動）	1
八王子市	省エネチャレンジ（家庭での電気やガスの使用量削減）	37

主な取組実績

会場から出る廃棄物のリサイクル

[目標]
運営時廃棄物の再使用・
再生利用率：65%

- 分別の取組：観客エリアの廃棄物は、発生するごみ毎に分別し、リサイクル
- 契約：リサイクル率65%を達成できるよう、会場毎・分別区分毎のリサイクルの廃棄物処理契約に向けて準備

観客エリアの分別案

プラスチック
ペットボトル
紙容器・紙コップ
缶
飲み残し
可燃ごみ (ティッシュ・割りばし等)

リサイクル

調達物品のリユース・リサイクル(仕組み作り)

[目標]
調達物品の再使用・
再生利用率：99%

- 物品管理：アセットトラッキングシステム（ATS）等を用いて物品等の調達から処分*までの状況を把握
- 委員会運営：財産の管理・処分に関する重要なこと、処分方法及び処分先等を審議する財産管理処分委員会を設置・運営
- 処分先決定の推進：部品購入時までには処分方法を決定し、調達業者決定からできるだけ早期に入札等により処分先を決定(ビジネスチャンスナビ等を活用)
- 後利用先確保に向けた連携：一部の財産については、東京都や都内区市町村等と連携し、大会終了後の利用の希望があった財産を活用いただくことも検討

※処分：目標達成に向けてリユース・リサイクルを推進

主な取組実績

使い捨てプラスチックを再生利用した表彰台プロジェクト～みんなの表彰台プロジェクト～

- P&G社の協力を得て、市民の協力により日用品の使用済みプラスチック容器を回収し、大会の表彰台を作成

聖火リレートーチ、ユニフォームへの再生素材利用

- オリンピック聖火リレートーチ、パラリンピック聖火リレートーチには、復興への想いを込めるとともに持続可能性に配慮。トーチの素材の一部には、東日本大震災の復興仮設住宅のアルミ建築廃材を再生利用
- オリンピック聖火リレーランナーのユニフォームには、ペットボトルをリサイクルした素材を再生利用

テストイベント

- テスト内容：東京2020大会の分別と同様の分別のごみ箱を設け、組織委員会のスタッフが観客の方々に分別を呼びかけ
- 効果確認と課題：分別のスタッフを配置することで、適切な分別に効果があることを確認一方で、観客の方々に認知される分別方法の周知及び掲示や、一斉に観客の方々が退出する際に、分別を確保しつつ円滑な運営を行う方法の検討などが課題

取組の進捗・課題等

会場から出る廃棄物のリサイクル

- 分別に関する周知の実施や、分別のスタッフ配置など大会会場における適切な分別活動を検討
- 使い捨てプラスチック対策・プラごみの削減：使い捨てプラスチックの削減対策の詳細を検討

調達物品のリユース・リサイクル

- レンタル等の活用
→調達の本格化に向け、調達段階時における一層のレンタル等の活用を促進
- リユース・リサイクルを円滑に進めていくための支援
→購入した物品については、リユースの受け皿となる団体や、リユース困難な物品の処分方法などの具体的な情報を取得し、各FAと共有しながら取組を推進
- 99%目標の達成状況の測定に向けた調達物品の情報の把握・管理
→調達物品を明確にし、アセットトラッキングシステム（ATS）等を用いて物品の数・重量・場所・後利用先等を把握

大気・水・緑・生物多様性等

主な取組実績

暑さ対策

〈テストイベントにおける検証の実施〉

- ・ 設備面の対策として、扇風機、ウォーターサーバー、高遮光性遮熱性シート、ミスト、散水チューブ、仮設型植栽ユニット（ミスト付）等を設置
- ・ 暑さ対策グッズとして、紙製の帽子、紙製のうちわ、瞬間冷却保冷剤、接触冷感ハンカチ、涼感マフラータオル等を配布

都市における水循環機能の向上

〈お台場海浜公園の水質安定化に向けた取組〉

- ・ 実際に競技を実施するエリアの水質、水温の調査を実施
- ・ 1重の水中スクリーンの設置による大腸菌等の流入抑制効果を検証するため、実証実験を実施

緑化、生物多様性

〈競技会場・ロード競技会場等の緑化〉

- ・ 既存樹木を極力保存し、樹木の移植や在来種を用いた新たな植樹を実施
- ・ 道路上で行われる競技、会場までのアクセス道路の街路樹については、きめ細やかな維持管理に加え、樹種や環境に応じ、計画的に剪定

大気・水・緑・生物多様性等

取組の進捗・課題等

暑さ対策

- ・今夏のテストイベントを踏まえて、会場毎に設備や配布物の必要箇所及び必要量を検証し、対策の充実に向けて検討

都市における水循環機能の向上

- ・トライアスロンのテストイベントでは、一部水質がIF基準を超えたことからデュアスロンに変更
→来年の大会本番では、1重スクリーンより高い効果が認められている3重スクリーンの設置を予定
また、更なる水質等の改善の検討（にのいの原因分析や対策など）や、高速ろ過施設や貯留施設の整備等も含め、東京都等の関係者と連携しながら万全な体制での開催を目指す

緑化、生物多様性

- ・東京都において、葛西海浜公園をラムサール条約湿地に登録。また、東京を訪れる観客の方々が花と緑の美しさを実感できるよう、民間や地域の方々との連携による緑化や植栽を実施中
→引き続き、生物多様性に配慮した植栽や花と緑の景観形成を推進

人権・労働、公正な事業慣行等

主な取組実績

ダイバーシティ&インクルージョン

●D&I戦略に基づく取組の推進

D&I を実現した大会を目指し、以下の4つを戦略の柱として、大会への反映を確実にするための具体的な取組を進めている

- ①D&Iマインド醸成（D&I研修の実施、東京2020Nipponフェスティバル「共生社会の実現」等）
- ②多様な人材の採用と活用（職員・ボランティアにおける多様な参加者の活躍促進等）
- ③大会に関わる人のための環境作り（アクセシビリティの確保、情報保障等）
- ④大会関係者及び観客、関係機関との連携・情報共有（公式ライセンス商品の活用等）

●D&I宣言の範囲拡大

- ・組織委員会幹部及び一般職員 2018年12月6日
- ・アスリート委員会 2019年2月8日
- ・街づくり・持続可能性委員会 2019年3月25日（写真）
- ・ボランティア共通研修 2019年10月～

※対象は共通研修受講者



人権・労働、公正な事業慣行等

主な取組実績

Diversity & Inclusion COLLECTION

D&Iの考えを広く社会へ、周りへ広めていくきっかけとなる商品
パラリンピック500日前となる4月に第一弾を発売し、開会式1年前の8月に第2弾を発売
今後も順次発売予定



視覚に障がいがある方にも使いやすい「白黒反転文具」



↑エンボス加工
←指文字デザイン

人権・労働、公正な事業慣行等

取組の進捗・課題等

大会開催時の人権・D&Iに関する事案への適切な対応

- ・国連「ビジネスと人権に関する指導原則」に則った初めての大会であり、パリ大会からは指導原則への遵守が義務となる。大会のレガシーとして、大会開催中も大会に関わる全ての人を対象とした取組の推進が必要

→ 大会期間中に、大会スタッフが人権に関する事案に適切に対応するため、競技会場等で発生しうる事例に基づく実践的なガイドブックの作成を検討中。それらの成果を踏まえ、大会スタッフに対する教育を検討

大会開催時のD&I醸成

- ・競技会場等において観客も参画し、全ての人を楽しめるような“D&Iに満ちた会場の雰囲気づくり”が重要

→ 様々なコミュニケーションツールを通じ、観客や社会に向けた発信やコミュニケーションを検討

参加・協働、情報発信（エンゲージメント）

主な取組実績

都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト

- ・多くの方々に参画いただいた結果、メダル製作に必要な金属量を確保
- ・大会1年前のメダルデザイン発表時にメダルプロジェクトの成果を発信

<最終的な確保金属量>

金	約32kg
銀	約3,500kg
銅	約2,200kg

<回収量>

自治体による小型家電回収	約78,985トン
NTTドコモによる携帯電話回収	約621万台



復興のモニュメント（2019年7月17日発表）

- ・東日本大震災の被災地からの感謝・応援のメッセージを載せたモニュメントを、大会時に大会関連施設等に設置することで世界のアスリートにメッセージを届け、大会後、アスリートのサインを載せたモニュメントが被災地に設置されることで、被災地と世界の双方向のコミュニケーションを目指すプロジェクト
- ・大学生と被災地の中高生が協同でモニュメントのデザインとメッセージを作成。モニュメントには、被災3 県の仮設住宅の窓等で使われていた再生アルミを使用

参加・協働、情報発信（エンゲージメント）

主な取組実績

「開発と平和のためのスポーツの国際デー」

- ・ 2019年4月3日にニューヨークでの国連のイベント「International Day of Sport for Development and Peace 2019」において、東京2020大会の持続可能性やSDGsへの貢献に関するビデオメッセージを発表
- ・ 国内では、国連広報センターの「開発と平和のためのスポーツの国際デー」記念アクションに参加し、スポーツを通じた気候変動への貢献について発信



G20サミット出展

- ・ 2019年6月27日から29日、G20大阪サミットの国際メディアセンター内に持続可能性をはじめとする東京2020大会のPRブースを出展
- ・ みんなのメダルプロジェクト、日本の木材活用リレー、みんなの表彰台プロジェクト、聖火リレータッチなど具体的な取組を各国メディアにPR



大会1年前における一貫した持続可能性の発言

- ・ 大会1年前セレモニーにおいて、みんなのメダルプロジェクト、日本の木材活用リレー、みんなの表彰台プロジェクト、聖火リレータッチへの東日本大震災の被災地の仮設住宅のアルミの使用等を紹介
- ・ 大会1年前の直前に、主要紙において上記取組を掲載

参加・協働、情報発信（エンゲージメント）

取組の進捗・課題等

大会開催に向けたエンゲージメントと情報発信

- ・ スポンサーを中心に、各主体との連携による具体的プロジェクトが一定の進捗
- 若者や市民団体等、多様な主体との更なる連携が課題

- ・ 大会が近づくとともに、多くのメディアが大会関連情報を求めることが予想されるため、大会の持続可能性の概念や各プロジェクト等、持続可能性に関する取組の発信が一層重要
- 報告書の情報を核として、様々な媒体を通じて具体的な成果を分かりやすく発信

- ・ 国内外から訪れる多くの観客の方々も、持続可能な大会実現のための重要なステークホルダーであり、大会の持続可能性を知ってもらい、行動を促していくことが重要
- 事前及び当日会場内における周知等を通じて、会場におけるごみの適切な分別をはじめ、観客の方々のエンゲージメントを促す情報発信に向けて準備

持続可能性に配慮した調達

主な取組実績

サプライヤー等とのコミュニケーション

東京2020組織委員会では、サプライヤーやライセンサーからのチェックリストの回収とヒアリングを継続的に実施。また、大会期間中に警備や清掃等の業務を担う委託事業者向けの説明会の機会を活用して、調達コードの周知を図っており、特に、労働面の適切な管理を強調

持続可能性に配慮した木材の調達

東京2020組織委員会では、有明体操競技場やビレッジプラザなどの施設の建設に使用する木材に、木材調達基準を満たすことを求めており、例えば、有明体操競技場では梁や外装に森林認証材を使用。また、組織委員会では、東京都と共同して、コンクリート型枠合板についてのモニタリング調査を実施

持続可能性に配慮した農・畜・水産物の調達

東京2020組織委員会では、2018年12月に選手村の飲食提供業務を担う委託事業者を決定。現在、選手村ダイニングのメニューを検討中。国において、調達基準を満たす食材の提供意向調査も実施

持続可能性に配慮した調達

主な取組実績

持続可能性に配慮した紙の調達

東京2020組織委員会では、紙の調達基準に基づき、コピー用紙や封筒、名刺等を調達。また、大会に関する広報資料等の印刷物やライセンス商品の外箱においても、森林認証紙等の調達基準を満たす紙の使用を進めている

ILOとの協力

東京2020組織委員会では、ILOとの協力活動を展開。2019年は、サステナビリティ・フォーラムの共催、スポンサー企業の取組を集めた事例集の作成、企業向けハンドブックの作成などを実施

通報受付窓口

2018年4月の通報受付窓口の設置以降、2019年8月末時点で計9件の通報を受け付け

調達コードに連動した動き

企業向けの対話・救済ガイドラインの作成など、持続可能性に配慮した調達やグリーンバンス・メカニズムの普及につながる取組が見られる

持続可能性に配慮した調達

取組の進捗・課題等

木材調達

- ・モニタリング調査で発見された、工場の労働安全対策や廃棄物処理等の課題については、企業がすでに改善に向けて取り組み。

→ 東京都とともに、今後のフォローアップのあり方を検討中。

通報受付窓口

- ・通報受付窓口については、その存在や使い方を幅広く認識していただくことが重要

→ 様々な機会・ネットワークを活用し、引き続き周知に取り組む。ウェブサイトを中心に、情報の充実やわかりやすさの改善も検討

会場整備

主な取組実績

再生可能資源の利用

- ◆ プロジェクト認証の取得
 - ・ 東京都が整備を行った「有明テニスの森公園 クラブハウス・インドアコート」の木造屋根トラス（部材を三角形に組んだ構造形式）が、都立施設として初めてとなるプロジェクト認証（※）を取得

（※）適正に管理された森林から切り出した樹木を原料とし、他の材料と混じることのない加工・流通を経た木材で作られたことを、認証機関がプロジェクトごとに審査、認証する制度



有明テニスの森公園
クラブハウス・インドアコート
内観イメージ

省資源・廃棄物の発生抑制

- ◆ 建設廃棄物等の分別徹底による有効利用
 - ・ オリンピックスタジアムでは、工事現場で発生する建設廃棄物等の中間処理レベルでの分別活動を徹底
 - ・ 建設廃棄物等を約100品目に分別し、資源として有効利用しやすくすることにより、リサイクル率99%以上の目標を達成予定



建設廃棄物等の分別状況

会場整備

主な取組実績

大気・水・緑・生物多様性等への配慮

- ◆ 豊かな生態系ネットワークの創出
 - ・ 既存の緑との連続性を踏まえ、気候や風土に適した樹種等により、新たな緑化を行うことにより、競技会場における生き物の生息・生育空間を確保



海の森水上競技場・海の森
クロスカントリーコース

人権・労働・公正な事業慣行等への配慮

- ◆ 「カームダウン・クールダウン」(※) の設置
 - ・ オリンピックスタジアムには、心身状況の変化により休息・休憩が必要となる障がい者向けの施設として、スタンド各層にカームダウン・クールダウンを設置



カームダウン・クールダウン
ピクトグラム

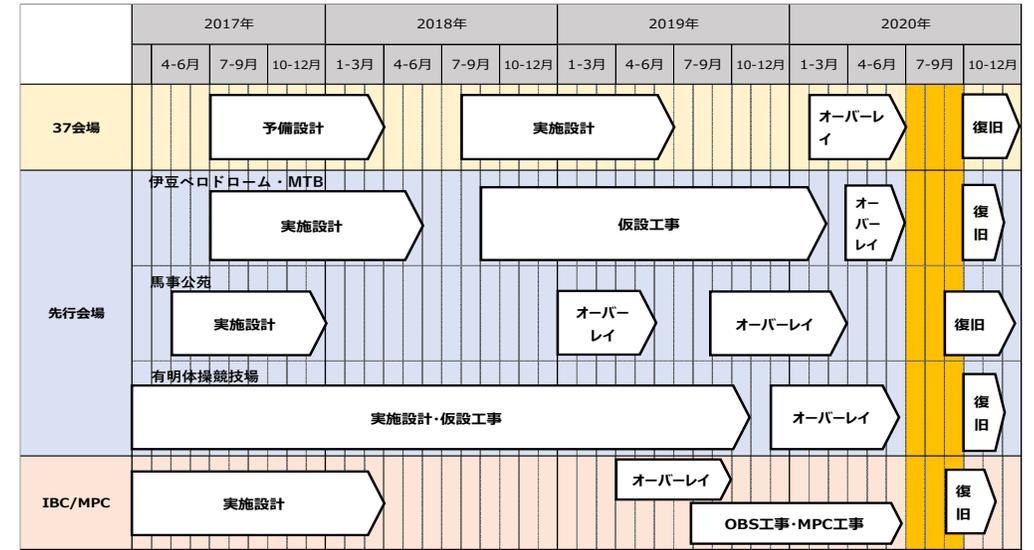
(※) 発達障がい者等の方が気持ちを静めることができるよう、当事者又は当事者と同伴者が利用できる独立した小部屋

会場整備

取組の進捗・課題等

会場整備の進捗状況

- ◆ オリンピックスタジアムは、2019年11月竣工予定
- ◆ 東京都が整備する恒久8会場は、2020年3月時点で全て竣工予定
- ◆ 組織委員会が整備する仮設会場等・オーバーレイ工事の進捗については、整備工程表のとおり



仮設会場等・オーバーレイ工事 整備工程表
 (「持続可能性に配慮した運営計画(第二版)」より抜粋)

会場整備における持続可能性の取組内容の情報発信

- ◆ JSCや東京都が整備する恒久会場はもとより、仮設会場等・オーバーレイ工事や選手村の整備においても、持続可能性確保の観点から、気候変動や資源管理等に配慮した様々な取組を実施
- ◆ 仮設会場等・オーバーレイ工事では、会場の整備主体者である組織委員会が、会場整備における持続可能性リスクの回避・低減に向け、配慮すべき事項や取組みを設定し、整備の各段階（実施設計完了時～大会前工事着手時・完了時～大会後工事完了時）ごとにコントラクターの取組状況を確認

→これらの会場整備における持続可能性の取組みは、大会後のレガシーともなることから、具体的に実績を把握するとともに、効果的に情報発信していくことが必要

持続可能性大会前報告書の作成スケジュール

2016年1月 持続可能性に配慮した運営計画（フレームワーク）
 2017年1月 持続可能性に配慮した運営計画（第一版）
 2018年6月 持続可能性に配慮した運営計画（第二版）
2019年3月 進捗状況報告書
2020年3月 大会前報告書
2020年12月 大会後報告書

【参考：ロンドンのスケジュール】
 2008年11月 運営計画（第一版）
 2009年12月 運営計画（第二版）
 *以降、実施状況を毎年数値公表
 2012年4月 プレ報告
 2012年12月 ファイナル報告



<2019年> 9月27日 第16回持続可能性DG
 10-12月 各WG等において個別課題や報告書作成に必要な内容等を検討
 12月 第17回持続可能性DG（大会前報告書の骨子等の審議）
 <2020年> 未定 街づくり・持続可能性委員会、理事会（大会前報告書の報告）
 3月末 大会前報告書公表（予定）



持続可能性に関する発信ツール

持続可能性に関する発信ツール「東京2020×持続可能性」について

目的

- ・ 組織委員会及びその関係者が持続可能性に関して統一したメッセージを発信するためのツールや、双方向のコミュニケーションツールとして使用
- ・ 組織委員会が使用するだけでなく、都、国、街づくり・持続可能性委員会委員等の関係者が対外的な発信に活用

作成の方向性

- ・ 講演会やワークショップ等の様々な場面で使用できるスライド形式
- ・ 大会の持続可能性に関心が高くない層に対して、情報の入口として興味・関心を持ってもらうことを重視
- ・ 持続可能性への気づきに重きをおくため、情報量を精査し、ビジュアルに配慮
- ・ 一般の人々が大会の持続可能性と自分たちの関わり実感できる内容

今後の予定

- ・ 本DGのご意見を踏まえて内容を確定、順次活用を開始
- ・ 2020年3月の報告書の内容を踏まえて内容を更新予定

持続可能性に関する発信ツール「東京2020×持続可能性」の位置付け

持続可能性に関する発信ツール

持続可能性に関心のない層をターゲットに、情報の入口として課題の背景や主要な事例を紹介し、興味・関心を持ってもらう

大会前報告書（概要版）

上記に加え、大会の持続可能性に注目する層もターゲットに、大会の持続可能性の成果や意義について、主要な事例を通じて発信

大会前報告書（本文）

持続可能性の詳細を把握したい層や専門家をターゲットに、大会の持続可能性を網羅的かつ国際基準に即して客観的に記載



TOKYO 2020

東京2020×持続可能性

東京 2020 大会の持続可能性コンセプト

Be better, together

より良い未来へ、ともに進もう。

1. 持続可能性とは

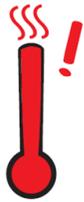
「持続可能性」に取り組むとは？

ずっと
言う

今のことだけではなく、
将来の人々や地球の未来のことを考えて、
環境問題や人権問題などの課題に取り組むこと。

世界が直面している「持続可能性」の課題

【気候変動】



極端な気温



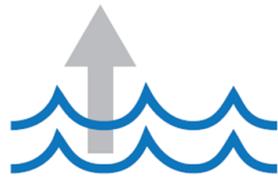
降水・極端な降水



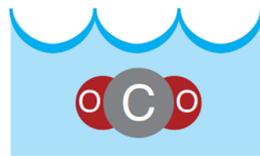
乾燥傾向



破壊的な台風、
発達した低気圧



海面上昇



海の酸性化

【生物多様性】



開発や乱獲による種の減少・
絶滅、生息・生育地の減少



里地里山などの手入れ不足
による自然の質の低下



外来種などの持ち込み
による生態系のかく乱



地球環境の変化による危機

地球の気候や生物の生息環境に大きな変化が起きています。

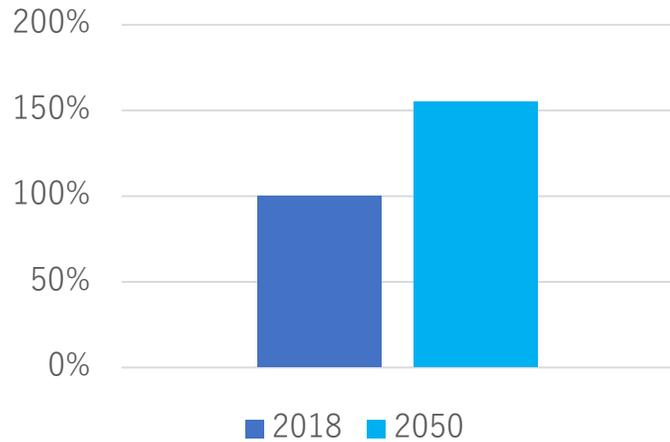
出典： 気候変動：環境省ウェブサイト「地球温暖化防止コミュニケーター事業」

生物多様性：環境省ウェブサイト「生物多様性に迫る危機」

写真提供：米持千里、株式会社千葉農産、関東地方環境事務所、鍵井靖章

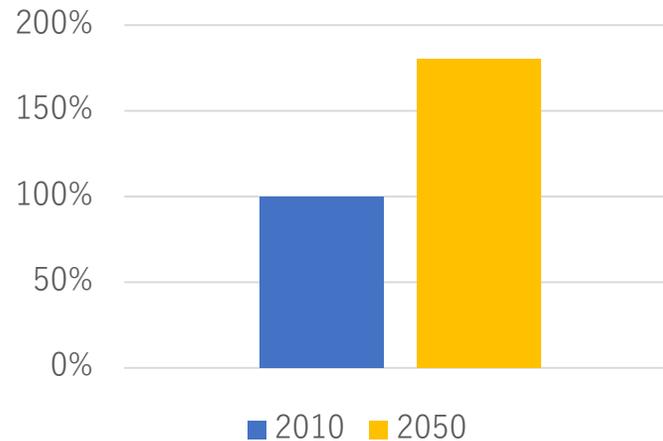
世界が直面している「持続可能性」の課題

【水の需要】



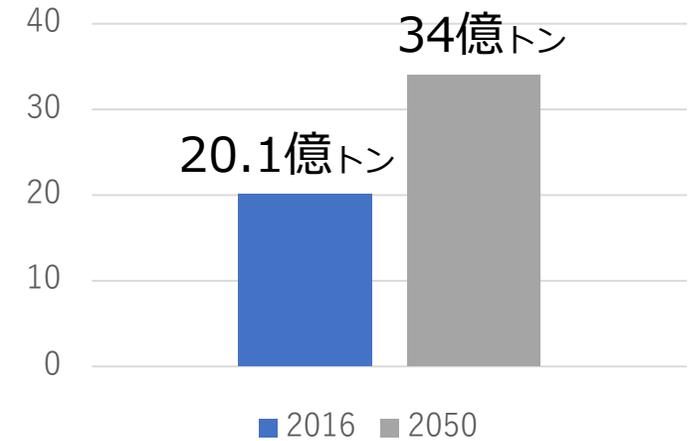
世界の水需要は
2050年までに**55%**増加

【エネルギー使用量】



世界のエネルギー使用量は
2050年までに**80%**増加

【ごみの量】



世界の廃棄物は
2050年までに**70%**増加

対策が講じられない場合、使用する天然資源やごみの量は、大きく増加してしまいます。

出典： 水：国際連合広報センター水と衛生に関するファクトシート2018年03月21日
エネルギー：OECD「OECD環境アウトルック2050」2012年3月15日
ごみ：世界銀行「What a Waste 2.0：2050年に向けた世界の廃棄物管理の現状と展望」2018年9月20日

最近ではこのような問題も

【海洋プラスチック問題】



毎年、**最大1,300万トン**ものプラスチックが川や海に流れています。



私たちが捨てるプラスチックは、**1年間に地球を4周することもあります。**



海洋ごみの50%が使い捨てプラスチック製品です。

出典 国連広報センターウェブサイト

このままでは、海洋に漂うプラスチックごみの量が、2050年にはすべての魚の重さを上回ると言われています。

出典 世界経済フォーラム報告書（2016年）

様々な人権の課題

【人権と関係する様々な要素】



**国内外で、そしてあなたの身近なところでも、
様々な人権の課題があります。**

世界全体で取り組む持続可能な開発目標（SDGs）

2015年に、国連で17の目標が定められました。



「誰一人、取り残さない」社会の実現に向けて、世界中で取り組みが始まっています。

持続可能性は、これらの背景を基に
ますます重要になってきています。

言い換えれば、

未来のために全員で取り組むべき大きな課題です。

世界中の国、企業や団体、そして個人が
できることを考えていかなければなりません。

知ろう！

考えよう！

行動しよう！

2. 「スポーツ」 × 「持続可能性」

「スポーツ」 × 「持続可能性」

スポーツは、持続可能性と深い関係があります。

例えば、気候変動により、海岸の浸食が進み、降る雪が減れば、海や雪の中で行う競技はできなくなるかもしれません。

また、多くの観客の移動、資源やエネルギーの消費、食事の提供、競技に必要な多くの物品を作るための労働環境など、環境や人権にも深い関係があります。

発信力のあるアスリートや多くのファンの存在、メディアによる発信などにより、スポーツをきっかけに、人々が社会問題に気づくきっかけになります。



スポーツには、世界と未来を変える力があります。

「スポーツ」 × 「持続可能性」

東京2020大会ビジョン

スポーツには
世界と未来を変える力がある。

1964年の東京大会は日本を大きく変えた。2020年の東京大会は、
「すべての人が自己ベストを目指し(全員が自己ベスト)」、
「一人ひとりが互いを認め合い(多様性と調和)」、
「そして、未来につなげよう(未来への継承)」
を3つの基本コンセプトとし、史上最もイノベーティブで、
世界にポジティブな改革をもたらす大会とする。

東京2020も、スポーツの力で持続可能な社会の実現に貢献していきます。

3. 「東京2020」 × 「持続可能性」

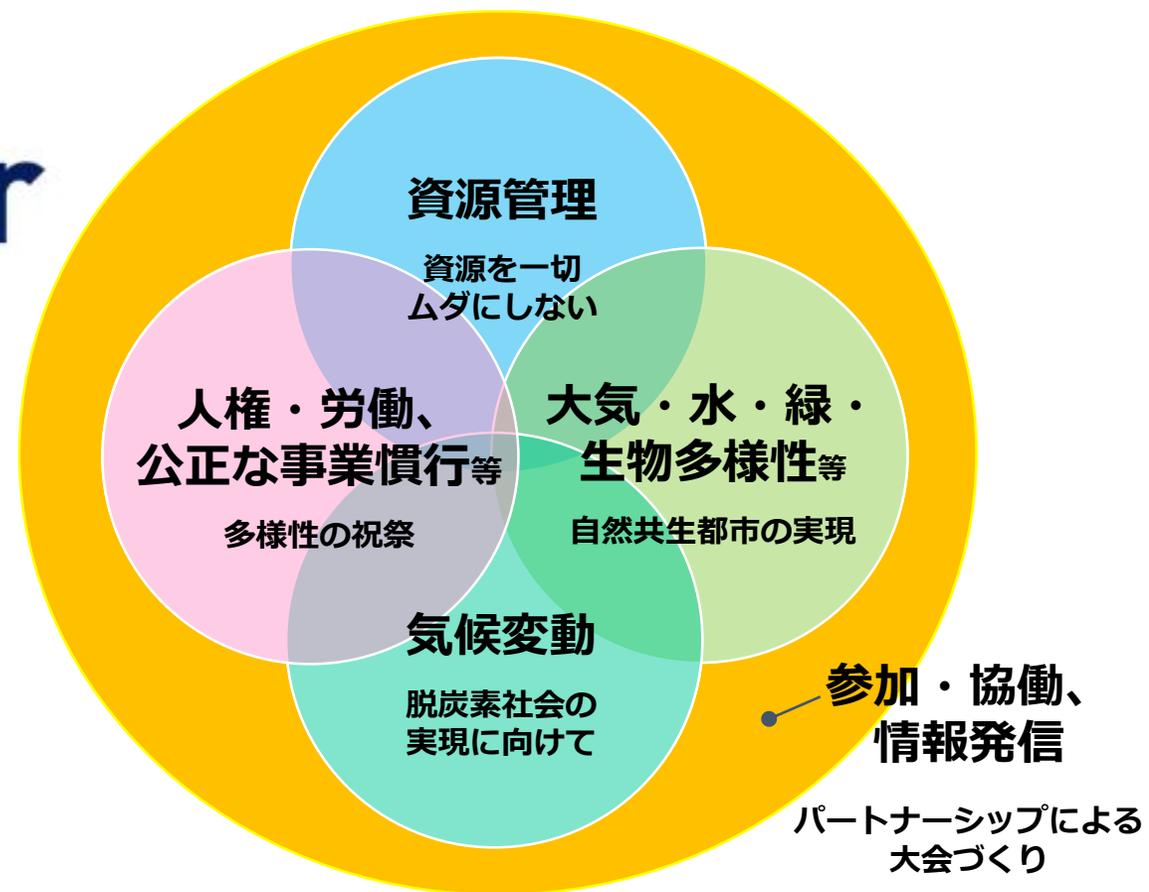
「東京2020」 × 「持続可能性」

東京 2020 大会の持続可能性コンセプト

Be better, together

より良い未来へ、ともに進もう。

私たちは、大会に関わる様々な方々とともに、地球温暖化や資源の枯渇、生物多様性の喪失などの環境問題の解決や、全ての人々の人権が尊重される社会づくりに貢献していきます。

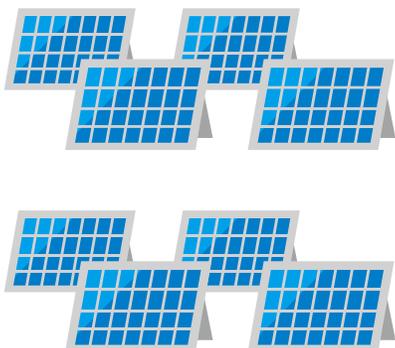


東京2020大会の持続可能性の
5つの主要テーマ

再生可能エネルギー電力の利用

競技会場、IBC/MPC、選手村において、
再生可能エネルギーを100%使用

再生可能エネルギー



競技会場



低公害・低燃費車の利用

燃料電池自動車(FCV)や電気自動車(EV)などの
低公害・低燃費車両を導入



FCV 約500台導入



EV 約850台導入



大会後の再エネ電気の社会的ニーズの高まり、
再エネ設備の導入・拡大への貢献

排気ガスを出さないゼロエミッション車(ZEV)に
より環境負荷を低減し、水素社会の実現にも貢献

都市鉱山からつくる！ みんなのメダルプロジェクト

約5,000個のメダルを国民の
使用済み小型家電からつくる



都市に眠る金属「都市鉱山」を
活用する循環型社会づくりに貢献

日本の木材活用リレー

63自治体から借り受けた木材で
選手村の施設を建設し、
大会後に木材を各地で再利用



- ・国産木材を使い、林業再生や
森林保全に貢献
- ・再利用により環境負荷を低減し、
大会のレガシーに

みんなの表彰台プロジェクト

家庭から出るプラスチック等を
集めて表彰台をつくる



使い捨てプラスチック活用の
新しいモデルを国内外に発信



調達物品の99%リユース・リサイクル

レンタル・リースや物品の再販を行うとともに、
大会関係者が連携して物品の後利用を推進



トイレユニット・
テントのレンタル事例

新たな物品の製造と廃棄物の発生を抑制し、
環境負荷を低減

運営時廃棄物の65%リユース・リサイクル

大会に関わる一人ひとりの参加により、
ごみと資源を適切に分別してリサイクル



大会開催中に発生する廃棄物について
質の高い資源循環を実現

競技会場におけるろ過施設の導入

新設競技会場において、ろ過装置を導入し、水資源を有効利用



12 つくる責任
つかう責任



大会における水循環に配慮

競技会場等における生き物の生息・生育空間の確保

既存の緑との連続性を踏まえ、気候や風土に適した樹種等により新たに緑化



15 陸の豊かさも
守ろう



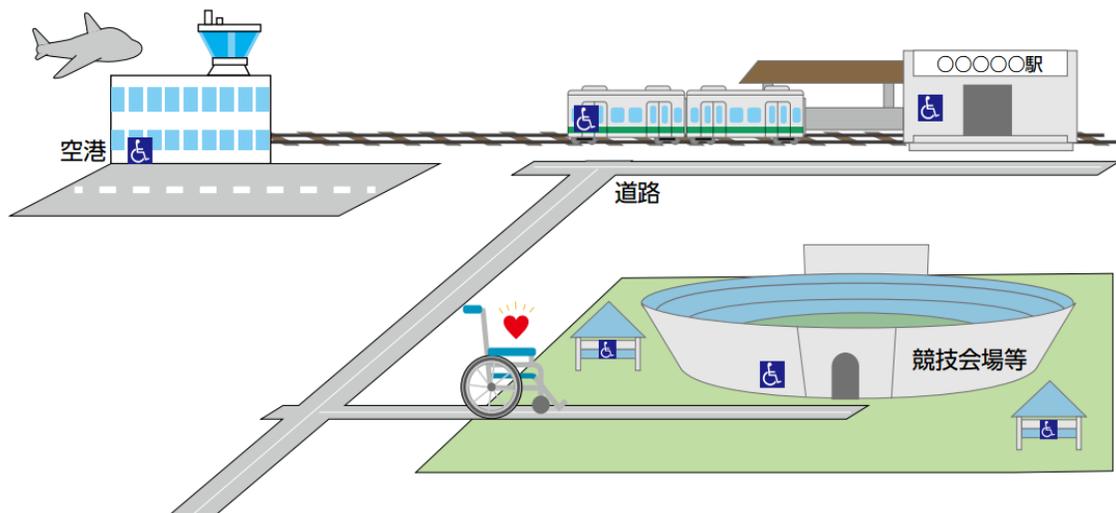
豊かな生態系ネットワークを創出

海の森水上競技場 全観（東側から）／©東京都
【平成31年1月時点の大会時イメージ図】



Tokyo2020 アクセシビリティ・ガイドライン

障がいの有無等にかかわらず、全ての人に対して
会場までの一貫したアクセシビリティの確保



誰もが住みやすい施設・街づくりを実現

ダイバーシティ&インクルージョン

世界中から訪れる多様な人々が、お互いの違いを
認め合いながら、一緒に楽しめる大会を実現

Know Differences, Show Differences.

ちがいを知り、ちがいを示す。

ダイバーシティ&インクルージョンの意識が
社会に浸透し、多様な社会を実現

参加・協働、情報発信 -パートナーシップによる大会づくり-

国際連合・ILOとの連携

国際機関と連携し、SDGsの啓発やディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）を推進



国連広報センターと連携した「開発と平和のためのスポーツの国際デー」記念イベント



ILOとの協力によるサステナビリティ・フォーラム

国際機関と東京2020が相互に協力し、大会をきっかけに国内外の人々の意識を啓発



東京2020 復興のモニュメント

被災地から世界へ
「感謝・応援～支援への感謝や選手への応援の気持ちを伝える～」
世界から被災地へ
「感謝・感動～応援への感謝やスポーツのもつ力を被災地に届ける～」
をコンセプトに、被災地の仮設住宅の窓等のアルミ建材を再利用してモニュメントを制作



岩手県、宮城県のデザインイメージ



福島県のデザインイメージ

- ・被災地と世界の双方向のコミュニケーション
- ・大会後は、被災地でレガシーとして継承



聖火リレートーチ、ユニフォームにおける持続可能性

聖火リレートーチ

聖火リレーのトーチに東日本大震災の復興仮設住宅のアルミを再利用



オリンピックトーチ



パラリンピックトーチ



ユニフォーム

「暑さ対策・持続可能性・多様性」を重視
再生ポリエステル材や植物由来材を使用



フィールドキャスト
(大会スタッフ)



シティキャスト
(都市ボランティア)



人々の生活を見守ってきた仮設住宅が、
平和のシンボルとしてトーチに姿を変え、
復興に向けて進む被災地の姿を世界に発信

資源の循環に加え、様々な年代、性別、国籍の方々が
快適に活動できるよう配慮



持続可能性に配慮した調達コードとは？

東京2020組織委員会では、大会の準備のために調達するモノやサービスの供給過程（サプライチェーン）において、持続可能性が確保されるよう、事業者を求める事項を「調達コード」としてまとめています。

【調達における持続可能性の4つの原則】

- (1) どのように供給されているのかを重視する
- (2) どこから採り、何を使って作られているのかを重視する
- (3) サプライチェーンへの働きかけを重視する
- (4) 資源の有効活用を重視する

4つの原則を踏まえ、調達コードでは、法令遵守のほか、環境・人権・労働等への配慮を求めています。木材、農・畜・水産物、紙、パーム油については個別の調達基準もあります。



木材の調達



会場整備において、森林認証材等の持続可能な木材を使用



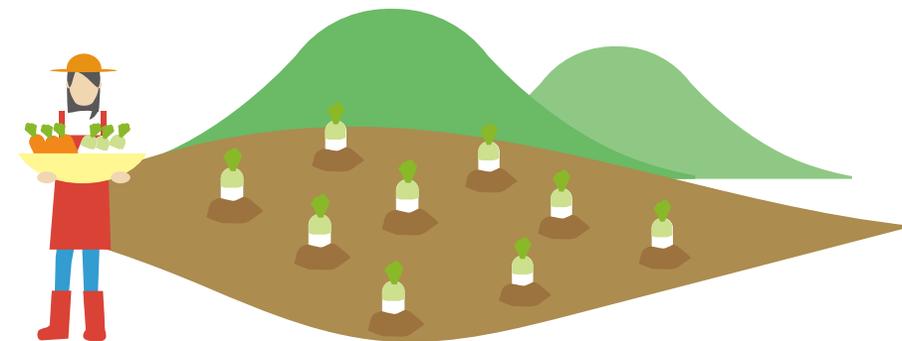
梁や外装に森林認証材を使用した有明体操競技場

森林認証材の普及を通じた持続可能な森林管理の拡大

食材の調達



選手村等の飲食提供において、GAP*認証品や水産エコラベル認証品など持続可能な食材を使用

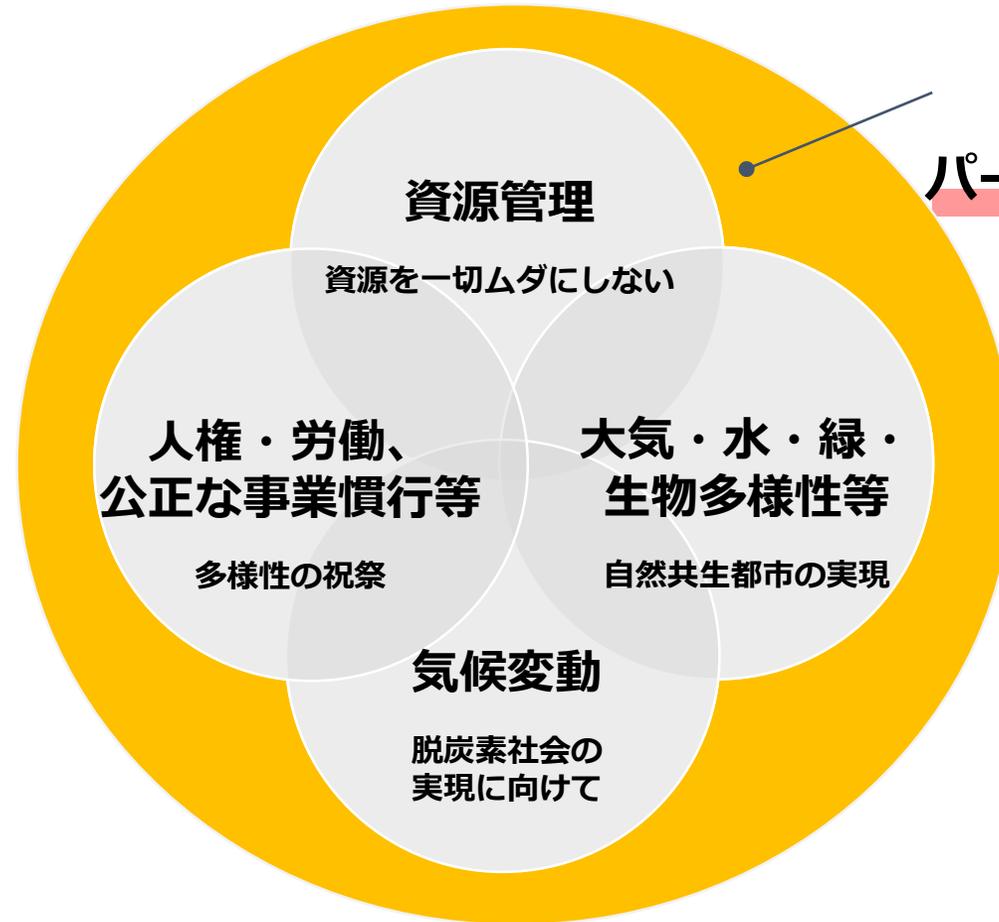


GAP認証等の取得増加を通じた農林水産業の競争力強化

*GAP (Good Agricultural Practice : 農業生産工程管理) とは、農業において、食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取り組み

4. 東京2020の持続可能性と皆さんとの関わり

東京2020の取り組みと皆さんとの関係



参加・協働、情報発信
パートナーシップによる大会づくり

東京2020大会の持続可能性には、
「皆さんと共にできること」がいくつもあります。

東京2020を通じて皆さんと共にできること

大会前

大会中

移動

大会中

周辺イベント
への参加

大会後

みんなの表彰台プロジェクト



家庭から出るプラスチックを回収しているお店に持っていこう

市民によるCO2削減・吸収活動



大会をきっかけに、CO2を減らすための省エネを始めよう

スポーツごみ拾い



ごみ拾い×スポーツ＝「競技」
日本発祥の新しいスポーツに参加しよう

小型家電のリサイクル



これからも小型家電をリサイクルして、メダルプロジェクトを大会のレガシーに

東京2020を通じて皆さんと共にできること

大会前

大会中

移動

大会中

周辺イベント
への参加

大会後

「東京2020参画プログラム」のアクションに参加してみよう。 <https://participation.tokyo2020.jp/>

【アクションの例】

パラスポーツ交流会



木の大切さを学ぶイベント



女性のエンパワーメントの展示



東京2020を通じて皆さんと共にできること



公共交通機関の利用



できるだけ環境負荷の少ない
公共交通機関を利用して移動しよう

ごみの分別



大会会場でも、身近なところでも、
きちんとごみを分別してリサイクルしよう

ダイバーシティ & インクルージョン

Diversity & Inclusion



人種・価値観・障がいの有無にかかわらず、自分らしく輝こう。大会や身の回りで、お互いの違いを認め合い、自分らしく輝いている人を応援しよう

東京2020を通じて皆さんと共にできること

大会前



大会後

みんなに伝えよう～成果を未来に

- 地域スポーツ×地域づくり
- アクセスしやすい、心地よいまちづくり
- 誰もが価値観や違いを受け入れ、能力を生かす社会
- ごみの削減、リユース、リサイクル
- パラスポーツの応援
- 自宅やオフィスでの省エネ

東京2020大会をきっかけに、自分が感じたことを家族や友達と振り返ってみましょう

みんなの「サステナビリティ宣言」

わたしが続けていきたいのは、

です。

「これならできるかも」と思うことを書いてみてください
そして、できることを続けていきましょう

もっと学ぼう、行動しよう



暮らしを支える製品がどのように作られているかなど、関心を持ったことをもっと学んで、行動してみよう

5. おわりに

“未来を生きる大切な人達”を幸せにするために

“今の私達”は何をするべきか？

東京2020大会が、

皆さん一人ひとりが気づき、動き出すきっかけを作るという

大会のレガシーを残すことができれば、

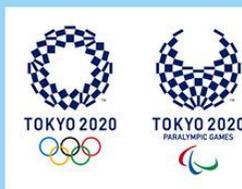
本当に未来と世界を変えることができるかもしれない。

私達はそう考えています。

Be better, together

より良い未来へ、ともに進もう。

Be better, together



より良い未来へ、ともに進もう。

気候変動

脱炭素社会の実現に向けて

資源管理

資源を一切ムダにしない

大気・水・緑・生物多様性等

自然共生都市の実現

人権・労働、公正な事業慣行等

多様性の祝祭

参加・協働、情報発信

パートナーシップによる大会づくり



調達物品の99%のリユース・リサイクルを実施

公共交通機関の活用

日本の木材活用リレー みんなで作る 選手村ビレッジプラザ

既存会場の活用

持続可能性に配慮した調達コード

燃料電池自動車等の活用

再生可能エネルギーの電力を100%活用

国連「ビジネスと人権に関する指導原則」への準拠

都市鉱山からつくる！ みんなのメダルプロジェクト

MEDAL PROJECT

Tokyo 2020 アクセシビリティ・ガイドラインの策定

雨水の循環利用・都市と自然の共生

東京2020 参画プログラムを全国で展開

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 世界を変えるための17の目標

東京 2020 大会を通じて、世界共通の課題である国連「持続可能な開発目標 (SDGs)」に貢献します。

イラストはあくまでイメージです。公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会